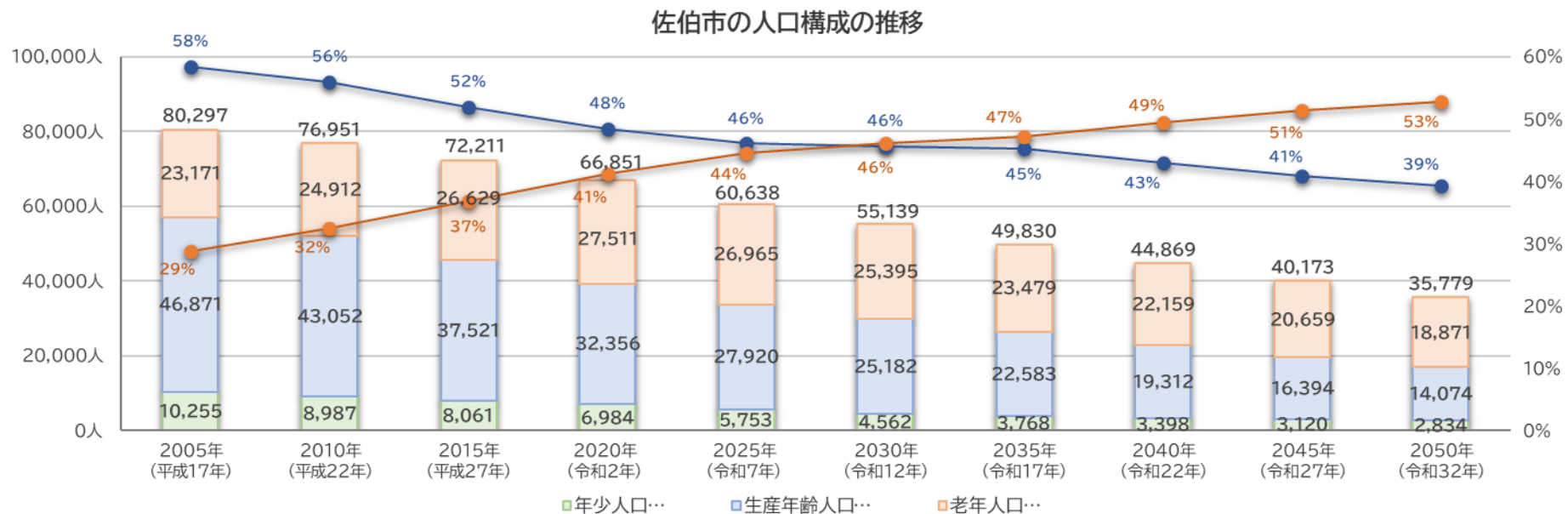


# 佐伯市人財育成・確保基本方針（デジタル部分）

令和8年3月

# 1 背景・目的

- 佐伯市の生産年齢人口は、2050年には2020年と比較して5割以上減少すると推測されています。本市を取り巻く環境は、人口減少・高齢化社会の進展により労働力不足が深刻化することに加え、地方自治体に求められる行政ニーズはより多様化・高度化・複雑化し、必要な公共サービス等の提供が困難になることが予想されます。
- 一方、ICT等の先端技術は日々進化しており、デジタル技術を活用することによる地域課題解決に向けた取組が重要となっています。



※出典 実績値：国勢調査（H17～R2） 推計値：国立社会保障・人間問題研究所 令和5年推計

- こうした背景を踏まえ、職員一人ひとりがDX推進するためのデジタル技術を効果的に活用できるよう、デジタル人財の育成が必要不可欠となります。
- 基本的な部分は第2次佐伯市人財育成基本方針を踏まえつつ、本市におけるデジタル人財の育成を計画的に推進することを目的として、本市が育成を目指す人財の役割や能力等を設定するとともに、必要となる項目をまとめた基本方針（デジタル部分）を新たに策定するものです。

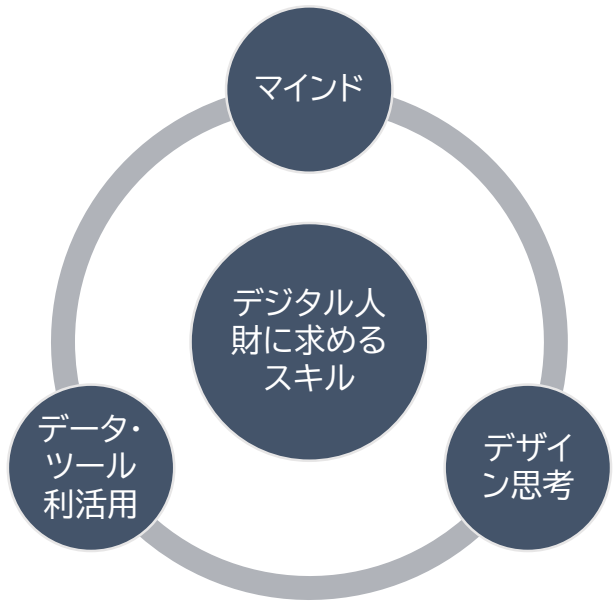
# 2 デジタル人財として求められる人財像、役割と育成・確保方針

## (1) デジタル人財として求められる人財像

デジタルツール等のデジタル技術を活用し、業務改善・最適化に挑戦する職員

DXを推進するには、行政ニーズや課題を的確に把握し、急速に発展していく技術や環境の変化に対応していくことが重要であり、従来の行政スキルに加え、デジタルの知識・経験が必要となる。

デジタル人財として、「マインド」、「デザイン思考」、「データ・ツール利活用」のスキルを有した人財の育成・確保を目指す。



### マインド

DX推進の基本を理解し、前提や慣習にとらわれず、前向きに取り組む姿勢

### デザイン思考

日々の業務における改善意識、住民サービス向上意識を持ち、見直し・改善できる能力

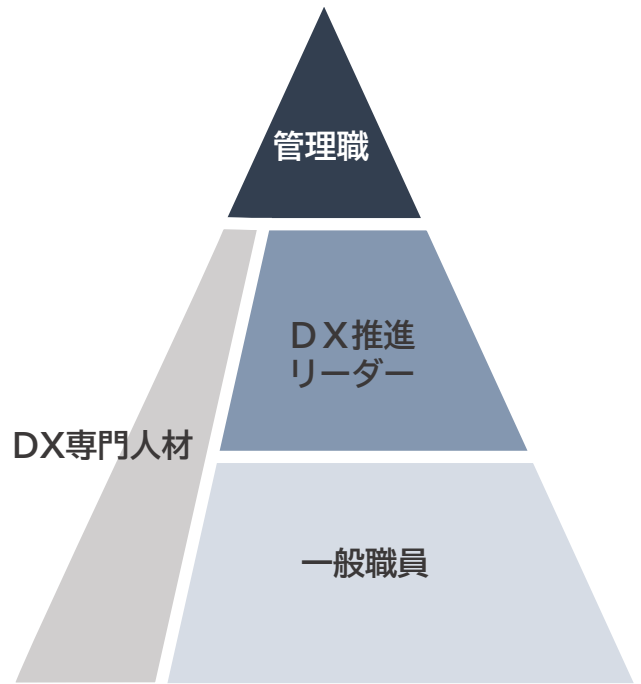
### データ・ツール利活用

データを活用したE B P Mの推進、デジタルツールを効率的に活用し業務改善に取り組むスキル

# 2 デジタル人財として求められる人財像、役割と育成・確保方針

## (2) デジタル人財の役割と育成・確保方針

育成・確保すべきデジタル人財像として、デジタル技術の必要性を理解したうえでリーダーシップを発揮する「管理職」、各所属のDX推進の中核を担う「DX推進リーダー」、導入されたツールを正しく使える「一般職員」、デジタルツールの目利きができる「DX専門人材」に区分し、その役割、育成・確保方針を整理。



区分	役割	育成・確保方針	目標人数
管理職	デジタル技術の必要性を理解した上で、全庁的な視点でリーダーシップを発揮し、配下のDX推進をけん引	◆デジタル技術の必要性を理解した上で、全庁的な視点でリーダーシップを発揮し、配下のDX推進をマネジメントする知識・スキルを習得する。	70名
DX推進リーダー	ニーズや業務上の課題を整理し、利便性の高い住民サービスを実現するため、アナログ業務のBPR、デジタルツールの活用などについて検討するなど、各課のプロジェクトの中核を担う	◆各所属ごとに所属長が指名。 ◆業務担当部局の業務に携わる経験を積みながら、所属内における業務改善やデータ活用等の推進に取り組むために必要となる知識・スキルを習得する。 ◆外部機関が実施する研修プログラムを活用するなど、業務改善、システムの導入等に必要な能力を養成し、DX推進の中核を担う人財を育成。	50名
一般職員	デジタルツールやデータの活用、セキュリティ等に関する基本的な知識を持ち適切に利用するとともに、その知識を積極的に発揮し市民サービスの向上や業務効率化等に取り組む。	◆OJT、研修等を通じて、デジタル時代の住民サービスを提供するためのデジタルリテラシーを高め、デジタルツールを活用し具体的な業務に適用する能力を養成。 ◆自身の業務に活用できるよう、デジタル技術やデータの活用事例やその利用方法に関する基本的な知識・スキルを習得する。	—
DX専門人材	電算システム管理・導入、ネットワーク保守を担うほか、デジタル技術やサイバーセキュリティ対策等、デジタル分野における高度な専門性を有し、各課のプロジェクトをマネジメント(サポート)し、DXを推進する	◆DXの技術的な分野において専門性を発揮し、各課のDX推進をサポートできる能力を養成。 ◆システム開発、ネットワーク、データベース、情報セキュリティやデータ活用等に関する専門的な知識・スキルを習得する。 ◆特に専門性の求められる分野においては、国・県の制度を活用した任期付職員や、近隣団体・県との共同調達等による確保を検討。	7名

### 3 デジタル人材に求められる能力と育成に向けた取組

区分	必要とされる能力	内容
管理職	デジタル技術の必要性を理解したうえで、変化に対応し、DXを推進できる	マネジメント、プロジェクト管理、デジタル技術基礎
DX推進リーダー	問題点を把握し、デジタル技術を活用して、課題解決に取り組むことができる	リーダーシップ、業務改革、デジタル技術基礎
一般職員	利用するシステムやデジタルツールを理解し、適切に利用することができる	オフィスツール、情報セキュリティ基礎、プロジェクト運営、デジタル技術基礎
DX専門人材	デジタル技術の動向、システムやデジタルツールを理解し、課題解決に向けたデジタル技術の活用を支援できる	プロジェクト運営、業務改革、オフィスツール、情報セキュリティ基礎、デジタル技術基礎

#### (1) 研修による育成

①スキルマップに応じた研修

各人材区分に応じて必要となるスキルを習得できるように、研修内容（スキルマップ）を整理し、計画的に研修を実施する。なお、個別の研修内容および時期等については、必要に応じて随時、見直しを行う。

②実施機関

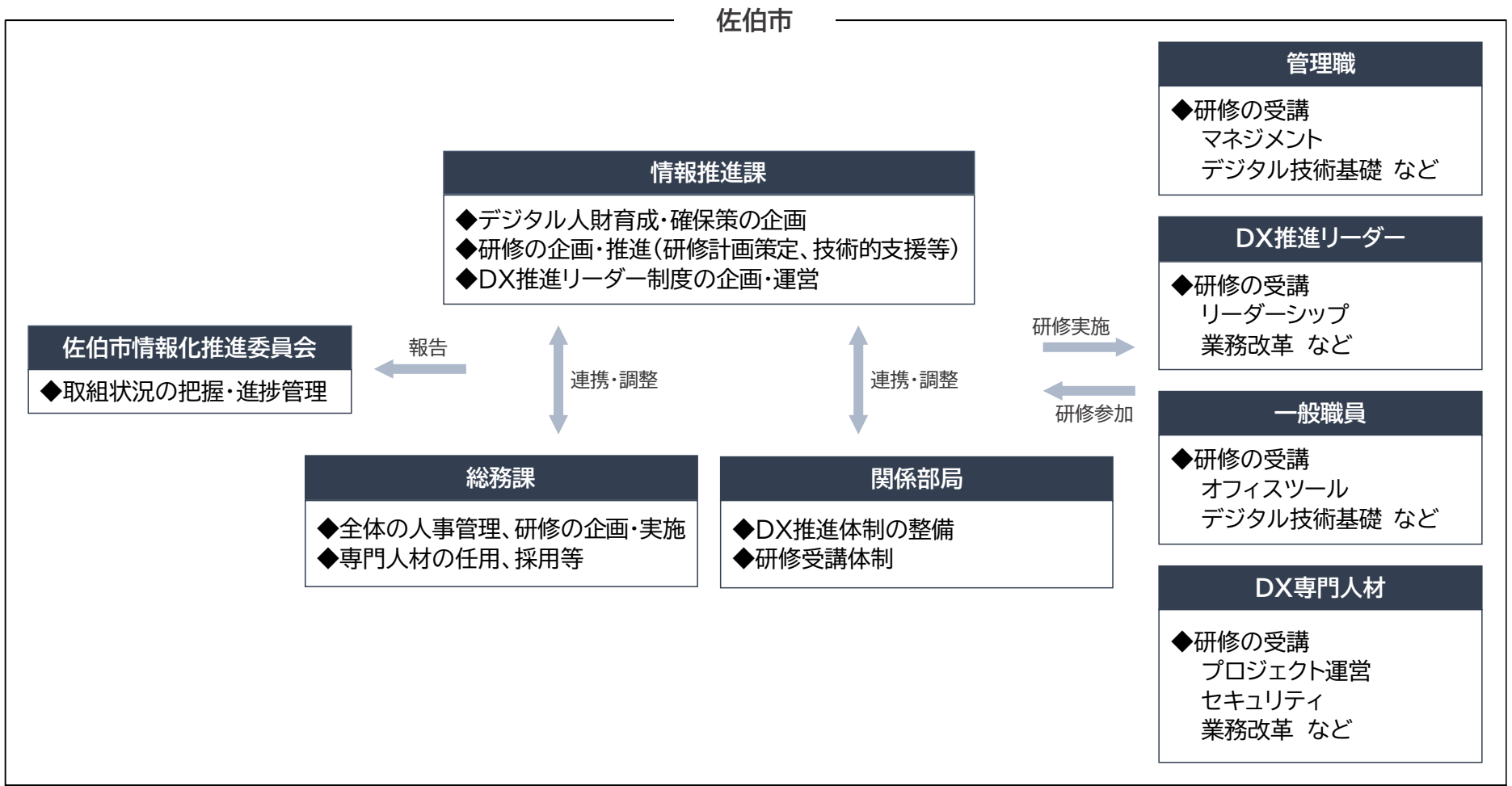
- ・自治人材育成センター  
キャリアアップ研修等により、各職階において必要となるデジタルリテラシーやマインドセットを習得する。
- ・その他の機関  
情報推進課・総務課及び関係各課が主催する研修や、国・県・民間企業等が主催・提供する研修により、デジタルリテラシーやマインドセット、市で導入されているデジタルツールや各種データの活用に関する知識・スキルを習得する。

#### (2) 実務を通じた人材育成

- ・各所属における業務改善等を通じて、デジタル技術の活用やデータ利活用に関する知識・スキルをOJTにより習得する。
- ・ジョブローテーションにより、デジタル技術に直接携わる業務のほか企画・調整などの行政実務に携わる職場をバランスよく経験することで、行政スキルとデジタルスキルの双方を習得する。
- ・人材育成の観点から、必要に応じ国や県等への研修派遣を通じてデジタルスキル向上を図る。

# 4 実施体制

- 市の情報化施策を総合的及び計画的に推進することを目的とし設置されている、「佐伯市情報化推進委員会」の下でデジタル人財の育成・確保の取組を進める。
- 情報推進課が「デジタル人財育成に係る育成・確保策の企画」、「研修の企画・推進」及び「DX推進リーダー制度の企画・運営」等を所管し、総務課が「全体の人事管理・研修の実施」等を所管し、連携して推進する。
- 取組状況は、「佐伯市情報化推進委員会」に報告し、進行管理する。



# 5 キャリアパス

## ● 継続的な育成によるキャリアアップ

➤ 継続的な育成とジョブローテーションにより、デジタル分野の専門性と行政実務の専門性のいずれも兼ね備えた人材の育成（キャリアアップ）を図る。

### 一般職員

- デジタル時代の住民サービスを提供するためのデジタルリテラシー向上
- デジタル技術やデータの活用事例やその利用方法に関する基本的な知識・スキルを習得

### DX推進リーダー

- 業務担当部局の業務経験
- 所属内における業務改善やデータ活用等の推進に取り組むために必要となる知識・スキルを習得
- 業務改善、システムの導入等に必要な能力を養成
- 各課のDX推進の中核を担う

### DX専門人材

- 技術的な分野において専門性を発揮し各課のDX推進をサポート
- システム開発、ネットワーク、データベース、情報セキュリティやデータ活用等に関する専門的な知識・スキルを習得

## ● デジタル人材のジョブローテーション

➤ 情報推進課を「ハブ」として、システム運用部門での運用管理、各部局での行政実務や業務改革、市民サービスのデジタル化、デジタル関連施策への従事、県等への研修派遣等を通じ、デジタル人材に求められるスキルの向上が見込めるジョブローテーションを推進する。

デジタル人材のジョブローテーションイメージ

